

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-116051

(43) 公開日 平成4年(1992)10月15日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
F 1 6 H 25/22		D 8207-3 J		
F 1 6 F 15/08		G 9138-3 J		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平3-37803

(22) 出願日 平成3年(1991)3月28日

(71) 出願人 000102692

エヌティエヌ株式会社

大阪府大阪市西区京町堀1丁目3番17号

(72) 考案者 信朝 雅弘

静岡県袋井市青木町5-1-105

(72) 考案者 大庭 文男

静岡県磐田郡福田町中島474番地

(72) 考案者 大場 昇

長野県伊那市西箕輪6769-1

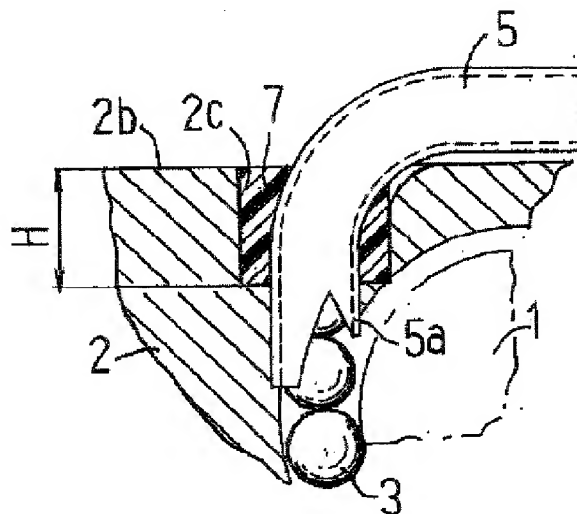
(74) 代理人 弁理士 江原 省吾

(54) 【考案の名称】 チューブ式ボールねじ

(57) 【要約】

【目的】 ボールねじ回転時の騒音を低減する。

【構成】 ボールナット2の外周面の一部には平面部2bが形成されており、平面部2bにはリターンチューブ5を装着するための循環用穴2cが穿設されている。リターンチューブ5は両端部5aを循環用穴2cに挿入され、平面部2bに固定される。リターンチューブ5の外周面と循環用穴2cの側壁との間には防振体7が介在する。ボール3のリターンチューブ5への衝突エネルギーが防振体7により吸収されるため、ボールねじ回転時の騒音が低減される。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ねじ軸とボールナットとの間に挿填されたボールを、ボールナットの循環用穴に両端部を挿入されたリターンチューブにより循環させるチューブ式ボールねじにおいて、上記リターンチューブの外周面と上記循環用穴の側壁との間に防振体を介在させたことを特徴とするチューブ式ボールねじ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係わるボールねじのボールナット部分を示す平面図である。

【図2】 図1におけるA-A断面図である。

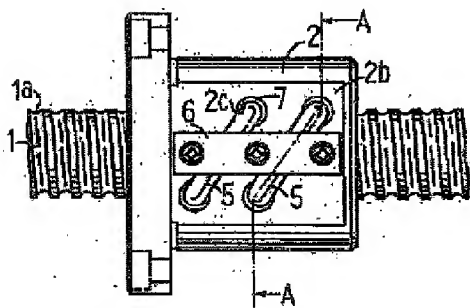
【図3】 循環用穴付近の部分拡大断面図である。

【図4】 従来のボールねじに係わる循環用穴付近の部分拡大断面図である。

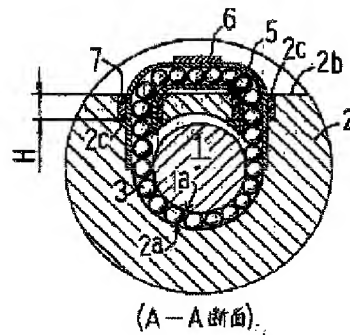
【符号の説明】

- 1 ねじ軸
- 2 ボールナット
- 2c 循環用穴
- 3 ボール
- 5 リターンチューブ
- 10 5a 両端部
- 7 防振体

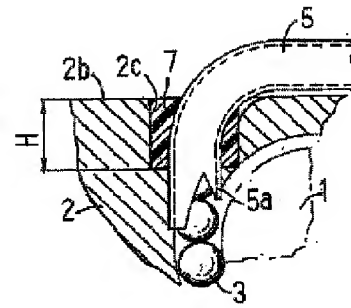
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

